

島根県支部

中山間地商業地区における需要流入分析に基づく事業創出可能性の調査・研究

島根県雲南市三刀屋町（旧飯石郡三刀屋町）は、雲南市における中心商業地である。

周辺旧町村（現在は雲南市）からの購買力流入があると同時に、島根の県都松江市まで 40 分、県内第 2 の都市出雲市まで 30 分（いずれも車で）の距離にあり、三刀屋町からは購買力が流出している。

人口規模からみた購買力の理論値は 6,616 百万円、購買力流出額は 3,322 百万円、購買力流入額は 3,153 百万円であり、現在の実質的な購買力は 6,448 百万円となる。実質的に赤字商圈といってよい。

上記の実質的な購買力は、つまるところ三刀屋町企業における供給力といってもよい。ただし、通信販売をはじめ、町外への販売は考慮できない。

流出の多い品目は、宝飾品（アクセサリ等）、書籍、娯楽品（スポーツ用品、音楽 CD 等）、日常食品、薬・化粧品等であり、宝飾品～娯楽品に関しては、最大の流出先は、出雲市である。日常食品は、実質的に三刀屋町商業地と一体となっている旧木次町スーパー等である。

宝飾品、書籍、娯楽品といった、いわゆる専門品が近隣都市へ流出するのはある意味やむを得ないと思われるが、最寄品である日常食品の流出は抑えるべきである。

日常食品流出の理由を消費者アンケートによって調査したが、それによると、価格、鮮度、品揃え、といった食品スーパーの基本的な要素で隣町スーパーが選ばれている実態が明らかになった。

薬・化粧品については、商圈と捉えられる雲南市全体にドラッグストアがなく、出店余地に繋がると思われる。

流入の多い品目は、酒類、家電、衣服、外食（飲食）であり、酒類～衣服は三刀屋町内に大型店があることが大きく影響している。外食については、三刀屋町が国道 54 号線と 314 号線の交差点付近に位置しており、交通の要衝であることが理由とと考えてよい。

流入先は旧周辺町村からが主であり、三刀屋町自体からは主に専門品需要が流出しながら、旧周辺町村から専門品需要を取り込んでいることになる。

これらのことより、今後の商業振興上の課題は、購買力流出抑制のために町内スーパーの競争力強化を図ること、購買力流入促進のためには、旧周辺町村から専門品需要のさらなる取り込みを図ること、であるといえる。

具体的には、購買力流出抑制のために、町内スーパーにおける価格設定、鮮度管理、品揃え改善を実施すること、購買力流入促進のためには、ドラッグストアや飲食店の新規出店、衣服、家電等の裾野的業態開発（衣類専門店、家電修理・リサイクル業等）を行う、といったことが考えられる。